



三次市議会議長 様

視察等報告(復命)書

報告者氏名 宍戸 稔



下記のとおり、研修が終了したので報告します。

		会派代表者	 印	経理責任者	 印
研修議員	宍戸 稔				
期 間	平成30年12月1日～2日				
研修先	岡山県高梁市 川上町学習センター ラ・フォーレ吹屋				
研修事項	第4回中山間地域の諸課題解決セミナー				
研修内容	<p>講演「地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり」 講師 菅原英次 川上診療所 所長 川上診療所・日だまり苑視察</p> <p>パネルディスカッション 「中山間地域における地域医療の未来」 パネラー 菅原英次 川上診療所所長 川井睦子 岡山県備北保健所所長 土岐太郎 高梁市政策監(厚生労働省から出向) コーディネーター 平井敦子 中国新聞文化部デスク</p>				
参考になった内容及び所見	<p>高梁市川上町での地域包括ケアシステム構築への取り組み、地域医療・介護について、現地視察と講演、関係者の意見を聞いた。 まちづくりの中心に医療・介護を据えてのグランドデザインを考え、実践されている。所謂「川上方式」と言われる地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくりである。その拠点が川上診療所であり、老人介護施設(日だまり苑)を併設し、医療、介護、住まいの複合施設で、地域住民の医療を確保しながら、まちづくりを進めていく、これまでにない取り組みを行っている菅原英次所長という人材の存在が大きいものとする。</p> <p>在宅医療連携の確立 「在宅医療コーディネーター」看護師が中心となりチームアプローチシステムというものが築かれている。地域連携室で窓口一本化が図られ、ケヤマネージャーからの医療の問い合わせにすべて対応している。情報を伝えることに留まらず、提案提言も行う。医師より看護師の方が患者に近く、本音の情報、声を聞くことができ、効果的な活用に生かされている。 在宅医療で緩和ケアの実践により、在宅緩和ケアでの自宅、地域での看取り率が高い。 がん患者97人中70人 77%</p> <p>特に印象深かったのは、職員スタッフが生き生きとされている！視察対応が明るい。 川上方式の地域包括ケアシステムで、働き甲斐をもって仕事に携わられていることがよくわかる。</p>				

視察・研修等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 保実 治



下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視察研修議員	保実 治			
期 間	平成30年12月1日（土）～平成30年12月2日（日）			
視察・研修先	「中山間地域の諸課題解決セミナー」 岡山県高梁市川上町・川上診療所・ラ・フォーレ吹屋			
視察・研修用務	「地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり川上町の取組」			
視察・研修先対応者	上川診療所長菅原 英次氏による講演 川上町「日だまり苑」の視察 全4名			
概要及び所見	<p>1日目：全国的にも注目されている「川上方式」の地域包括ケアシステムの仕組みと、「川上診療所」と「日だまり苑」における運営の視察研修。</p> <p>2日目：パネラー4名による「中山間地域における地域医療の未来」というテーマで今後のあり方についてパネルディスカッションに参加・私の住む川西地域が目指している「医療と介護」の一体化の完成を見るようであった。</p> <p>・高齢者の一人住まいの人への電話等での安否確認による体調の確認も今後必要になると思われた。</p>			

研修・視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山村 恵美子



下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視察議員	清友会 山村恵美子			
期 間	平成30年12月1日（土）～平成30年12月2日（日）			
研 修 先	「中山間地域の諸課題解決セミナー」 岡山県高梁市川上町 川上診療所・日だまり苑、川上町学習センター、 ラ・フォーレ吹屋			
研修用務	「地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり ～川上町の取り組み～」 「中山間地域における地域医療の未来」			
研修先対応者	公演:菅原 英次（川上診療所所長） 視察先:川上診療所所長・日だまり苑 パネルディスカッション:菅原英次（川上診療所所長） 川井睦子（備北保健所所長） 土岐太郎（高梁市政策監 厚労省より派遣） コーディネーター:平井敦子（中国新聞文化部デスク）			

<p>概要及び所見</p>	<p>概要</p> <p>川上方式として全国的にも注目されている地域包括ケアシステムの仕組みを学ぶ。それをもとに現地、川上診療所と日だまり苑における運営を視察する。</p> <p>2日目は「中山間地域における地域医療の未来」というテーマで、高梁市における地域医療の現状と今後のあり方について、講演者、行政担当者によるパネルディスカッションに参加する。</p>
	<p>所見</p> <p>かつてまちのコミュニティの中心は学校であったが、少子高齢化社会を迎え、特に中山間地域は超高齢化社会にある。川上町においては、コミュニティの構成員の多くが高齢者であり、医療福祉がまちづくりの中心を形成するべきと捉え地域包括ケアシステム構築に早期に取り組んだ。まちの中心部に医療・介護・福祉・子育ての期間を集約してコンパクトタウンを形成している。住みなれた地域でいつまでも暮らせるよう、介護老人保健施設と併設の川上診療所、町内外の居宅事業所などと連携してできるだけ家庭に近い環境で心身の自立を促すケアを実践して、元気に在宅での生活に戻れるきめ細かなサポートを行っている。認知症専門の病床階もあり、生活場所が変わって混乱をきたす認知症特有の症状への対応もハード・ソフト両面で支える体制が整っている。介護老人保健施設としての前提はリハビリ後在宅で過ごすことを目的にしているが、実際最終的に看取りが必要な場合も対応する。訪問医療、介護、看護について、限りある人材で対応するため、特に医師の仕事については看護師など他のスタッフで担える部分を積極的に分担している。採算性のない医療分野、例えば分娩、高度な手術などは地域の基幹病院ではすでに対応できない現状で、その部分は岡山市、倉敷市などへ、委ねて、介護予防、介護を中心とした地域包括ケアシステムを構築されている。</p>



第4回 中山間地域の諸課題解決セミナー

パネルディスカッション
中山間地域における課題の解決





